

オガレ! ACE

ものづくり産業広報誌

2019.3
Vol.20

特集 仕事図鑑

ものづくりにかける

特別企画 ACEに聞く

株式会社東京ダイヤモンド工具製作所
宮城県白石工業高等学校

ようこそ宮城へ!

日本積層造形株式会社

みやぎものづくり女子

プラスエンジニアリング株式会社

仙台事業所

鈴木 沙紀さん

あすを拓く

泰光住建株式会社

赤間 晃治さん

技の肖像

塗師

菅野 裕喜さん



ものづくり産業広報誌 オガレ! ACE Vol.20 発行: 宮城県 (産業人材対策課) 編集: ハリウコミュニケーションズ株式会社

厚生労働省委託 若年技能者人材育成支援等事業

広告

若年技能者の人材育成・技能継承をお考えの事業主・教育機関等の皆様へ

学びの環境づくりから未来の人材育成へ!

ものづくりマイスター制度

ものづくりマイスターが若手社員に実技指導

本年度4回にわたり、ものづくりマイスターが株式会社四戸(気仙沼市)で、建具製作の実技指導を行いました。この日、同社を訪れた亀井富保ものづくりマイスターが、建具製作(木製建具機械加工作業)2級の技能検定合格を目指す横山昌平さんに、木製建具機械加工のノウハウを伝授しました。



ものづくりマイスターの根気強い指導と的確なアドバイスで楽しく技術を学んでいます。

横山 昌平さん

道具の扱い方から指導をいただいたこと、できるようになるまで我慢強く教えていただいたことで、少しずつですが技術が身に付いていると実感しています。私の質問にも的確な答えやアドバイスを返していただき、会話をしながら楽しく学んでいます。

建具の製作を本格的に初めて2年。家具製作(家具手加工作業)3級に合格したので、次のステップとして建具製作2級に挑戦しています。これからも、たくさんの技能を習得して成長したいです。

社長の声

株式会社四戸 代表取締役 横山 芳平さん

若い社員に対して丁寧に指導いただき、安心して社員の指導をお任せすることができました。また、複数のものづくりマイスターを派遣していただきながら、技能検定に必要なノウハウをはじめ、実際の仕事に役立つ裏技なども教えていただき大変感謝しています。社員に自信が生まれ、職場への定着にもつながると期待しています。



マイスターの声

ものづくりマイスター 亀井 富保先生



実技指導では、和やかな雰囲気づくりを意識して、生徒と「できた喜びをともに分かち合う」ことができるように心掛けています。努力は決して嘘をつきません。根気強く練習して身に付けた力と経験が、きっと良い結果に導いてくれるはずです。

応募は随時受け付けております

【指導内容】 企業・団体の若手人材に向けた技能競技大会の課題または技能検定の実技課題等を活用した実技指導

【指導期間】 1人最大20回まで(1回3時間まで)

【費用】 ものづくりマイスターに対する謝金、旅費、材料費【上限2,160円/人(税込)】は、宮城県技能振興コーナーが負担します。

【これまでの受け入れ職種】

建築大工、建築板金、機械検査、プラスチック成形、機械加工、建具製作 等

まずは、宮城県技能振興コーナー

までお問い合わせください。

TEL.022-727-5380

FAX.022-727-5381

宮城県技能振興コーナー 検索

次号予告

オガレ! ACE Vol.21は、2019年7月発行予定です。

オガレ! ACEはウェブサイトでもご覧いただけます



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



この印刷物は、環境に配慮した材料と工場で作られています。



この印刷物は、輸送マイルージ低減によるCO2削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷し、印刷用の紙へリサイクルできます。

発行=宮城県(産業人材対策課)
編集=ハリウコミュニケーションズ株式会社

本冊子は12,000部作成し1部あたりの単価は231円です。



モリタ宮田工業株式会社 栗原工場
及川 美紗さん



株式会社プラモール精工
本田 衛さん



株式会社中央製作所
夏目 真帆さん



東北アシダ音響株式会社
伊藤 雄太さん

宮城県内のものづくり企業では、どのような製品が作られ、どんな仕事をしている人がいるのか。現場で働く4人のエースの姿と生

の声から、宮城のものづくりの「いま」を紹介します。

ものづくり産業広報誌
オガレ!
ACE
Vol.20

01 ようこそ宮城へ!
日本積層造形株式会社

02 特集・仕事図鑑
ものづくりにかける

[CASE.1]
生産技術
及川 美紗さん
モリタ宮田工業株式会社 栗原工場

[CASE.2]
設計開発
本田 衛さん
株式会社プラモール精工

[CASE.3]
製造
夏目 真帆さん
株式会社中央製作所

[CASE.4]
生産管理
伊藤 雄太さん
東北アシダ音響株式会社

15 特別企画「ACEに聞く」
株式会社東京ダイヤモンド
工具製作所
宮城県白石工業高等学校

17 みやぎものづくり女子
プラスエンジニアリング株式会社
仙台事業所
鈴木 沙紀さん

19 あすを拓く
泰光住建株式会社
赤間 晃治さん

21 技の肖像
塗師
菅野 裕喜さん

22 NEWS BOX



むすひ丸

ようこそ
宮城へ!



日本積層造形株式会社 (多賀城市)

日本積層造形株式会社は、大手総合商社の双日株式会社(東京都)と、日本の積層造形分野の草分け的存在である株式会社コイワイ(神奈川県)が出資し、2017年10月に設立した会社です。社名でもある積層造形というのは、いわゆる3Dプリンタを用いたものづくりで、当社では金属材料を用いて行っています。デジタル技術を駆使して金属製品のスライステータを作成し、一層毎に積層して立体物を造形する技術で、3次元モデルのデジタルデータがあればどのようなデザイン形状の部品でも製造することができます。具体的には、二層分(約30~100マイクロメートル)の金属粉末を敷き詰め、スライステータを元に熱源となる電子ビームやレーザーを照射。金属粉末の溶融・凝固を繰り返し行う事で造形物を完成させます。航空・宇宙分野のエンジン周辺部品や、医療分野のインプラントなど高い精度が求められる市場で需要が急拡大しています。積層造形の強みは、①複数の中間部品や工程に

分かれていた金属製品の製造工程を簡素化できる。②従来工法では不可能だった複雑な形状の製品製造ができるため、自由な製品デザインができる。③将来的には、材料とプリンタがあればどこでも金属製品が製造できるため、中間在庫の削減や、地産地消による輸送の削減も期待できることです。しかしながら、日本は積層造形分野において欧米や中国に比べて出遅れているというのが現状です。金属積層の技術を定着・普及させるためには、プリンタ装置、粉末材料、造形技術を総合的に理解し、製造現場で活用していくことが重要だと考え、宮城県や東北大学の協力を得て、この東北・宮城の地に新会社を立ち上げました。ものづくり革命といわれる金属積層造形による製造が世界中で注目され、新たな製品開発が行われている中で、ものづくり大国・日本を支えるメーカー各社が引き続き世界中で活躍できるように、わが社の技術とノウハウでお役に立ちたいという想いで事業化に取り組んでいます。



所在地/多賀城市八幡一本柳3-8

<https://www.jampt.jp/>

代表取締役社長/保田 憲孝

資本金/4億8,232万円

従業員数/16人(2019年1月現在)

事業内容/AM用金属粉製造販売、金属AM受託造形サービス、金属AMによる実用品・量産品開発



CASE
01
仕事
図鑑

高品質・高性能な消火器を製造 人々の安心安全な暮らしを守る

生産技術
及川 美紗さん (25歳)

モリタ宮田工業株式会社 栗原工場 (栗原市)

ものづくりの環境改善に貢献
生産設備の開発を担当

独特のツヤと透明感を持つ赤が印象的。見る角度によって深みを増したり鮮やかになったりと表情を変える「キャンディーレッド」で塗装を終えたばかりのボトルが、次々とライン上を流れる。これらデザイン性に富んだボトルが、最終的に消火器になるというのだから驚きである。

塗装工程から次の工程へと自動的に運ばれていくボトルに視線を送る及川美紗さんは、「この設備の開発には私に関わりました。稼働が始まった設備についても、正確に動作しているかどうかを確認しています」と説明する。

消火器や消火設備の製造を手掛けるモリタ宮田工業株式会社の生産技術課に所属する及川さんは、現在入社5年目。生産設備の開発から立ち上げ、その後のメンテナンスに至るまで幅広い業務を担当し、消火器の製造を支えている。

「私の仕事は、電気系と機械系の両方の知識とスキルが求められます。また、消火器製造に関するすべての工程に関する知識が必要です」

同社の工場では、アルミ製ボトルの消火器本体容器への成型から塗装、消火薬剤やガスの充てん、圧力ゲージの検査、ハンドルレバーの取り付けなど、あらゆる工程で消火器製造に特化した生産設備が導入されている。及川さんから生産技術課のメンバー

数学も得意だった、いわゆる「リケジョ」の及川さん。「ものづくりの仕事に就こうと真剣に考え始めたのも高校生の時でした」と話す。

登米高等学校の普通科を卒業し、本格的なものづくりについて学ぶため、東北職業能力開発大学校(栗原市・以下、東北能開大)の電子情報技術科に進学した。「電子回路やプログラミング、情報ネットワークの知識があれば、将来さまざまな仕事で応用できるのではないかと思ったんです」

東北能開大での授業や実習を通して、めきめきとスキルを身に付けた及川さんは、卒業後に同社に入社した。

は、各工程の作業内容や作業者の要望などを把握するため、直接現場を訪れ、得られた意見や情報をもとに、設備の改善や新しい設備の導入を検討する。こうして、作業の安全性や生産効率、製品の品質向上につなげているという。

「まだまだ覚えなければいけないことがたくさんありますが、課の先輩や現場のみなさんから、意見やアドバイスをいただきながら仕事を進めています」

高校卒業後にもものづくりの道へ
東北職業能力開発大学校に進学

及川さんが働く栗原工場では、アルミ製蓄圧式消火器「アルテシモ」を一貫生産している。アルミ製の本体容器を採用することで、業務用消火器の10型クラスでは業界初となる、3キログラム台の軽量化を実現。女性や高齢者でも扱いやすくなった。また、溶接部が無い一体成型の容器は、経年劣化によるガスもれのリスクを大幅に減らし、安全性が向上した。独特の質感と美しいフォルムの本体容器には、かつて自転車のフレーム製造を手掛けていた同社の前身企業が培った技術が受け継がれている。

安全性、デザイン性に優れたアルテシモは、商業施設やオフィス、病院などさまざまな場所に置かれ、業務用消火器でトップクラスのシェアを誇っているという。

高校生の頃からものづくりに興味があり、

企業情報

モリタ宮田工業株式会社

所在地 / 本社：東京都江東区有明 3-5-7 TOC 有明ウエストタワー 19 階
栗原工場：栗原市志波姫南郷蓬田西 3-2
TEL 0228-25-2111
http://www.moritamiyata.com/



代表取締役社長 / 田中 幸男

資本金 / 1 億円

設立 / 2014 年 7 月

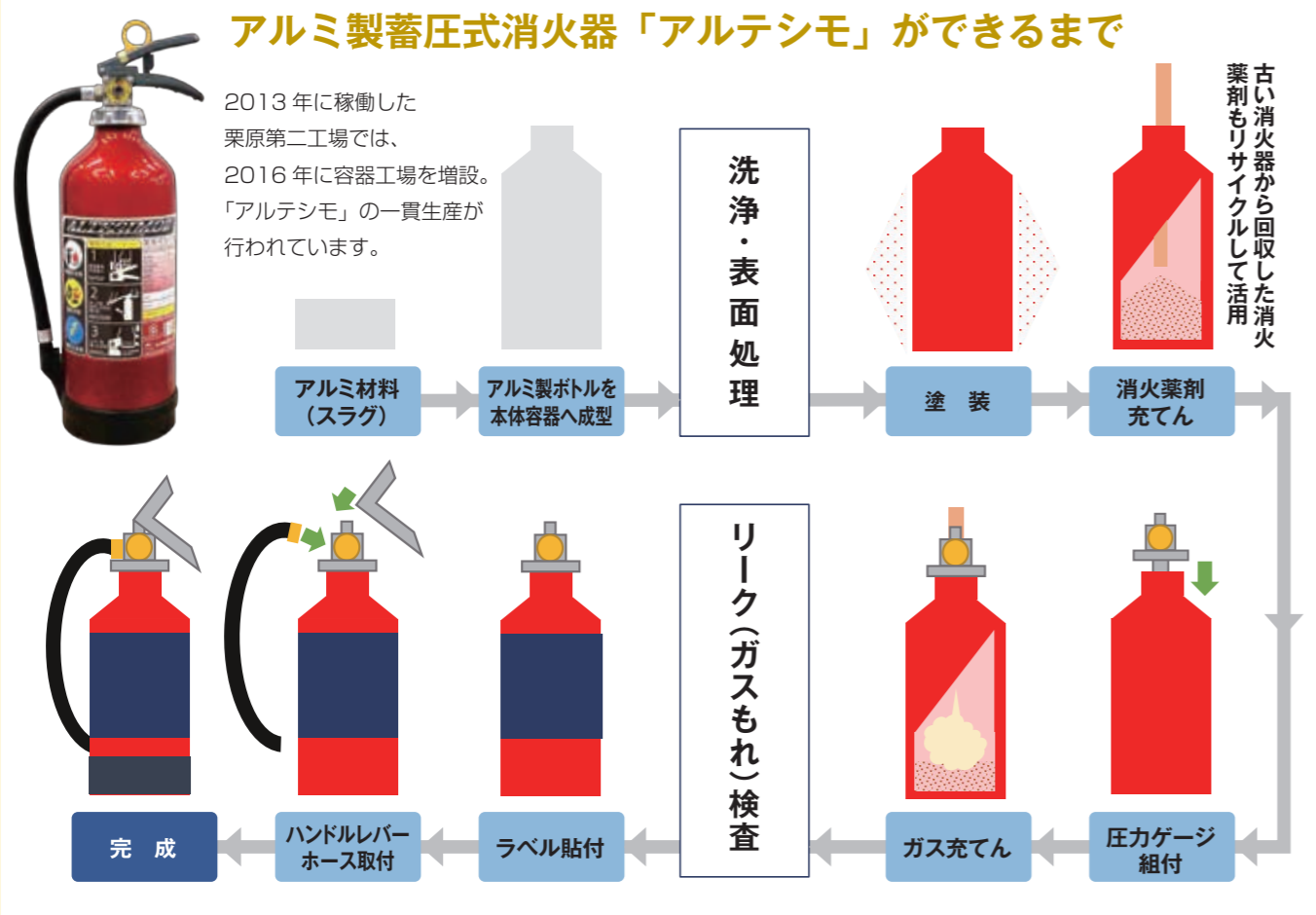
従業員数 / 390 人 (2018 年 3 月現在)

従事業務 / 消火器を中心とした消火関連機器、消火装置、その他各種防災機器・設備の開発・製造・販売

企業理念 / 当社は、心を込めたモノづくりと、絶えざる技術革新によって「安全で住みよい豊かな社会」に貢献し、真摯な企業活動を通じて社会との調和を図ります。

アルミ製蓄圧式消火器「アルテシモ」ができるまで

2013年に稼働した栗原第二工場では、2016年に容器工場を増設。「アルテシモ」の一貫生産が行われています。



作業者の「ありがとう」が一番の原動力です

生産設備の制御プログラムの確認をする及川美紗さん



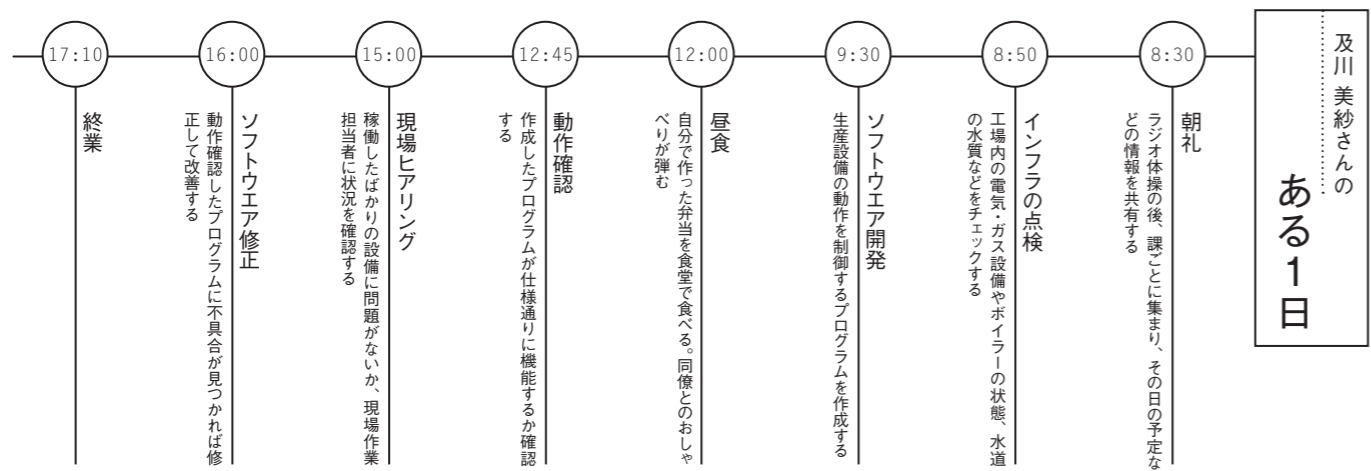
パソコンを使って設備を制御するプログラムを作成する



製造現場で作業担当者に設備についてヒアリングする



ボイラー設備の点検を行う。工場インフラの点検は、最初に取り掛かる業務だ



設備メーカーとの打合せ。仕様やスケジュールなどについて話し合う



現場の担当者から設備の不具合の連絡を受けると、すぐに駆け付け状況を開く

**未来のACEへ
先輩からの
アドバイス**

私は高校までに学ぶことすべてが、社会人に必要なスキルの基礎になっているんだと実感しています。ものづくりの仕事に就いた私にとって、数学で学んだ三角関数や連立方程式はいまでも役に立っています。英語は、工業系の専門用語を理解するときに必要なスキルです。グローバルに活躍したい人にとって、絶対に必要なスキルです。

文系の教科が不得意だった私は、国語力の大切さを身に染みて感じています。報告書やメールを作成する時、どうしたら相手に分かりやすく伝わる文章を書けるのが課題です。みなさんには、学校で学んでいることがこれから絶対に役に立つという意識を持って、日々の勉強を頑張ってください。



積極的なコミュニケーションで先輩たちの声に耳を傾ける

工場のそれぞれの工程を回り、3カ月かけて消火器製造について一通り学んだ後、本格的に生産設備の仕事に携わった。東北能開大で学んだプログラミングの知識を生かし、制御回路の作成で即戦力として実力を発揮。その一方で、及川さんが苦労したのが、職場でのコミュニケーションだったという。

課内では紅一点。製造現場には女性がた

上司に聞く

苦手分野を努力でカバーする頑張りを感じ「人の命を守る」ものづくりを志して



生産技術課課長代理 尾形 伸市さん

東北職業能力開発大学校で情報系の勉強をしてきたということもあり、制御プログラムの作成に強さを発揮してくれていると思っています。弱点である機械系についても、足りない部分を先輩にアドバイスを求めたり、自分で知識を深める努力をしたりしながら頑張っています。それが結果にもつながっているのではないのでしょうか。課内の女性は及川さん一人だけという職場で、本当によく頑張ってくれていると感じています。

これからも、現場で作業するみなさんの声を取り入れながら、自らのスキルアップを図り、安全性と生産性向上に貢献してほしいと思っています。

いまは目の前のことで精一杯だと思いますが、これからは「私たちは防災機器メーカーの一員として、人の命を守る製品づくりに関わっている」という使命を認識して、仕事に取り組んでほしいと思っています。

くさん働いていたが、一番年の近い先輩でも30代で、ほとんどの人が及川さんと一回り以上も歳が離れていた。

「人見知りだからと消極的になっていては仕事が出来ない。何とかしなくては！」

と思った及川さんは、まず昼休みに食堂でお弁当を囲む先輩たちの輪に入って話しかけた。職場でのあいさつや声掛けも意識し、少しずつ打ち解けていったという。

2年目には、新しく導入する設備の開発チームに参加。頻繁に現場に足を運び、担当者から話を聞いた。分からないことは、

とことん質問して設計に生かした。

制御プログラムの開発では、修正や調整が繰り返される。導入まで数カ月間、大きな設備では1年かけて試行錯誤の日々が続くという。「目標の期限が迫る中、設備メーカーとのスケジュール調整も大変でした。苦労した分、無事に導入できた時の喜びと達成感格別です」と及川さんは話した。

ものづくりの現場を支え

消火器製造のやりがい共有したい

設備の導入後も現場を見回り、現場の様子や担当者の意見をもとに改善することも、及川さんの大切な仕事のひとつだ。「以前より作業が楽になったよ」「ありがとう、助かってます」と現場の人たちから寄せられる感謝の声と信頼感が、及川さんの自信につながり、さらなるモチベーションを生んでいる。

「現場のみなさんが、安全で安心して作業ができる環境を整えることが、生産技術を担当する私の役割だと思っています。みなさんの仕事をサポートすることで、私も消火器の製造に参加している気持ち共有することができます」

これからも、生産設備に関する業務を通してものづくりに貢献したいと意気込む及川さん。「それにはまだまだスキルが足りません。特に機械の知識をもっと身に付けなければならぬと思っています」と飽くなき向上心をみせさせた。

CASE 01 仕事図鑑

高品質・高性能な消火設備で人々の安心安全な暮らしを守る

生産技術

及川 美紗さん (25歳)
モリタ宮田工業株式会社 栗原工場 (栗原市)



工場内に展示されている「アルテシモ」のサンプル。サイズのバリエーションはもちろん、オリジナルラベルが貼られた製品が並ぶ

優れモノを続々発明 株式会社プラモール精工のオリジナル製品

同社が培ってきたプラスチック射出成型のノウハウを結集した、さまざまな自社製品が、業界の課題解決に貢献しています。これまで4つの製品が、「みやぎ優れMONO認定」を受けています。

第4回認定 (2012年) ガストース



プラスチック射出成形時に樹脂から発生するガスを抜く「ガス抜きピン」。成形品を金型から押し出すピン先端面にガスを抜くための細い溝穴を設けることで、製品を安定して成形することができます。

第5回認定 (2013年) エアトース



金型内のガスや空気を抜くための排気口を1000分の5ミリ単位で調節できる装置。これまでよりはるかに調整が楽になり、金型へのプラスチック樹脂のスムーズな充てんが可能になりました。

第9回認定 (2017年) レボゲート



プラスチック射出成形金型に組み込まれ、製品部に樹脂が流れ込む入り口（ゲート）部に使用される金型部品。ゲート穴を複数設けることで、射出成形品の品質と生産効率アップが望めます。

第10回認定 (2018年) ラジエタースプループシュ



スプループシュとは、ノズルから射出された溶解プラスチックを金型に送る部品。プラスチック射出成形中にスプループシュの先端（ノズル側）から糸状に樹脂が長く伸びてしまう「糸引き」を防止します。



自分ならどう加工するだろう。問いかけながら想像する。

金型部品の機械加工に使う治具の調整をする本田衛さん

企業情報

株式会社プラモール精工

所在地 富谷市鷹乃杜 4-3-5
TEL 022-348-1250
<http://www.plamoul-seiko.co.jp/>

代表取締役 脇山 高志

資本金 7,000万円

設立 1983年10月

従業員数 45人 (2019年3月現在)

事業内容 プラスチック射出成形、金型設計・製作、自社製品（ガストース等）製作・販売

企業理念 人づくりを基本とし、何事にも先見性を以て信頼度一番の企業を作る



「不可能」を「可能」にする会社
独自のアイデアと不屈の精神で
プラスチック射出成形に使う金型を設計する場合、製品の「型」となる部分以外にも、樹脂を一定の速さで流し込むための通り道や、金型内部で発生したガスを抜くための複雑な構造が組み込まれている。いかに樹脂をスムーズに金型へ流すこと

「もし、自分が担当するならどんな機械を使ってどう加工していくか。頭の中でイメージを膨らませています」

仕事 02 CASE

アイデアが光る自社製品でプラスチック射出成形に革命を起こす

設計開発 ほんだ まもる
本田 衛さん (25歳)

株式会社プラモール精工 (富谷市)

金型や治具などの設計を担当
プラスチック製品の一貫生産を支える

「これは、金型の部品を作る時に使用する治具で、私が設計しました。最後の調整が終わった後、マシンにセットしてオペレーターが部品を加工していきます」
自ら開発を手掛けた治具を楽そうに眺めながら、株式会社プラモール精工で働く本田衛さんは教えてくれた。

治具とは、加工や組立てなどの工程で、部品や工作物を固定し、工具などの作業位置をガイドするために用いるもの。ものづくりの効率アップや品質向上のために欠かせない補助器具である。
IT機器に使われるコネクタ部品のように小型で複雑なプラスチック射出成形品を製造する同社は、精密金型の設計・製作からプラスチック製品の成形まで一貫生産する高い技術力を強みとしている。本田さんが所属する商品開発課では、金型や治具のほか、自社製品の設計と開発を担当している。クライアントから届くプラスチック製品の設計図から、高品質な製品を効率良く量産できるような金型の構造を考え、設計図に起こす。また、金型の加工に効果的な治具を考える。こうして、本田さんが作成した設計図をもとに、機械加工のオペレーターが金属を加工して金型や治具を完成させる。本田さん自身も、かつて機械加工に携わっていた。その経験を生かし、オペレーターが、加工しやすいような設計を心掛け

ができるか。そして、内部にたまったガスを確実に外へ逃がすことができるか。「製品の成形不良の低減や生産性向上に大きな影響を及ぼす」と本田さんも話すこれらの課題をクリアするアイテムが、「ガストース」などの自社製品である。

同社では、2010年の「ガストース」の発売以来、オリジナルの金型部品を続々と発表。宮城県内で生産された特に優れた工業製品の証である「みやぎ優れMONO」の認定を4度も受けている。

本田さんは、「難しい金型設計の依頼を受けたとき、たとえ無理だと感じても、最初から『できない』とは言いません。解決方法を可能な限り考えます」と語る。その力強い言葉から、独創的な発想と決して諦めない意志で多くの課題をクリアしてきた同社のスピリットがうかがえた。

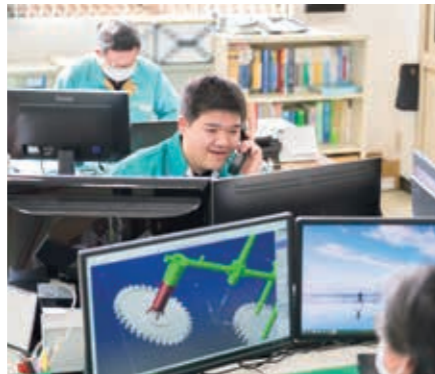
ワイヤ加工機の壁を乗り越え機械加工のスキルを磨く

本田さんは、黒川高等学校の電子機械科(当時)で、ものづくりについて学び、部活動では「ロボットコンテスト」に出場するロボット制作にのめり込んだという。

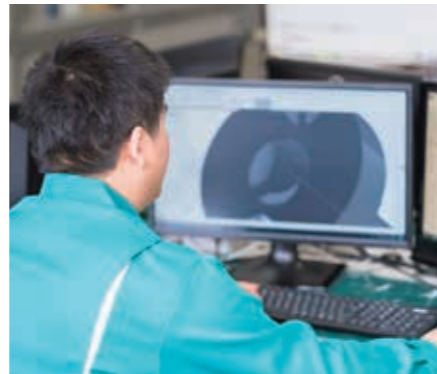
「仲間と一緒に考えたアイデアをもとに部品を加工し、ロボットを完成させた時。実際にロボットが動いた時。そして、コンテストで対戦相手に勝利した時。そのすべてが魅力でした」と振り返った。
授業や部活動で学んだ機械加工の経験を



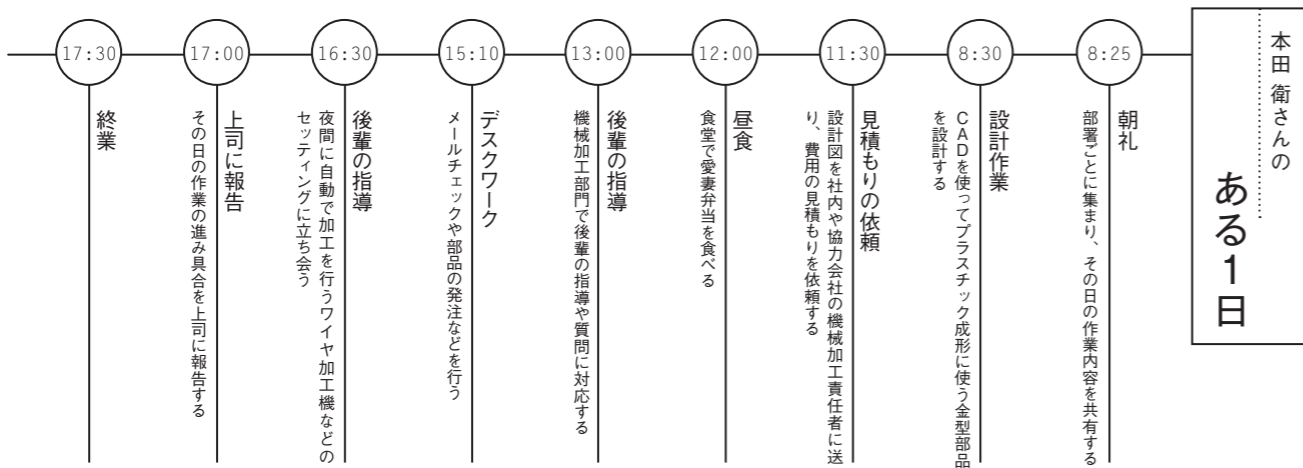
設計図を見せながら機械加工担当者に相談。意見をもとに設計の修正をする



機械加工を依頼する協力企業の担当者と電話で打ち合わせをする



3DCADを使って製品の設計をする



高い技術とアイデアが生きる、同社のプラスチック射出成形品



上司に作業の進み具合を報告。指示やアドバイスをもらう



後輩にワイヤ加工機を使った加工について指導する

未来のACEへ
先輩からのアドバイス

高校の時に得た知識や経験は、必ず役に立ちます。だから、将来就きたいと思っている仕事に必要な知識や資格を、高校生のうちから持つっておくことはいいことだと思っています。一つでも多くのことを身に付けるため積極的に挑戦しましょう。

積極性と言えば、どんなことでも分らないことは人に聞く意識も大事です。私が後輩の指導をする時、後輩がどんなところに苦労しているのか、分からないのかを聞き出すことに苦労しています。言うだけはタダなので、もっと貪欲になってほしいと感じています。

そして、何事にも前向きな気持ちを持ちましょう。仕事で失敗しても、すぐに気持ちを切り替えて前に進む。とにかく行動と実践あるのみです！



上司に聞く

製造部 部長 金野 政雄さん

好奇心旺盛なアイデアマン 後輩にも信頼されている若手のホープ

機械加工部門にいた頃から、自分でよく考えて物を作ることが得意だった本田君は、今の部署に異動してからも、こちらが黙っていても次々アイデアを出してくれる頼もしい若手です。

社内の誰よりも好奇心旺盛で積極的。人が集まっているところには、すぐに「何をしてるんですか？」とやって来ます。そんな人当たりの良さに加え、最近では責任感と貫禄が出てきて、先輩からも後輩からも慕われています。子どもが生まれたことが、影響しているのでしょうか？

温厚な性格で、指導をしている後輩から何度同じことを聞かれても丁寧に根気強く伝える姿勢は、とても素晴らしいと思います。これからも、本田君らしさを大切にして、目の前のチャンスを見逃さず、高みを志してほしいと思っています。

「同じ説明でも、人によって捉え方が違います。人に分かりやすく伝えることの難しさを実感していますし、入社当時の私に先輩たちは上手に教えてくださったってんだなとあらためて思いました」と話す本田さんは、先輩から教えてもらった当時に振り返りながら、指導にあたっていているという。「自分の力だけで金型の設計ができるようになりたい。そして、もっと幅広い分野で活躍したい！」と強い決意を胸に、本田さんは自身のスキルアップと後輩の指導に奮闘している。

およそ5年間、マシンオペレーターとして経験を積んだ本田さんは、1年半ほど前に、上司から設計開発部門への異動の打診を受けた。ものづくりのさらに深い分野に関わることができるとも思えない……。そう考えた本田さんは、新たなステージでの挑戦を決めた。

金型や治具の設計では、自分のアイデアを取り入れ、技術的なことや工期、費用などについて機械加工の担当者から意見を求めている。設計図の修正と試作を重ねて試行錯誤しながら理想の金型や治具を目指す。その一方で、本田さんはかつての職場である機械加工部門で働く後輩の指導も担当している。

「ここがACEポイント！」

株式会社プラモール精工では、ものづくりに関わる多くの技術者が、機械加工部門を経験する。同社のものづくりに必要なあらゆる基礎が、機械加工のノウハウにつながっているとの考えからだ。

「設計開発に携わってからも、機械加工で培ったスキルや経験を仕事に生かしています」と本田さんも話している。

CASE 02
仕事図鑑

アイデアが光る自社製品でプラスチック射出成型に革命を起こす

設計開発
本田 衛さん (25歳)
株式会社プラモール精工 (富谷市)

生かせる仕事に就きたいと、就職先に同社を選んだ本田さん。入社後、機械加工部門に配属されると、初めて扱うワイヤ加工機が立ちちはだかった。

ワイヤ加工機は、ワイヤに電気を通し、電気の熱で金属を溶かして切り抜いていく。オペレーターがあらかじめ機械に数値データを入力して自動で加工を行うため、高橋で扱っていた直接操作が必要な普通旋盤や汎用フライス盤との勝手の違いに戸惑ったという。

「最初の設定がうまくいかず、機械をス

トップさせてしまい、工期の遅れや不良品を出してしまったことがあります」

こうしたミスにもめげず、本田さんはマニュアルに隅々まで目を通し、先輩からアドバイスをもらいながら少しずつワイヤ加工をものにしていった。「一人の力で初めて加工ができた時の達成感は、いまでも覚えていますが」と本田さんは話した。

本田さんが加工に携わった金型は、同社のプラスチック成形でも使われている。金型が完成した喜びに加え、「その金型を使って製品が生み出される瞬間にも立ち会える

設計開発の道への挑戦 後輩の指導にも力を注ぐ

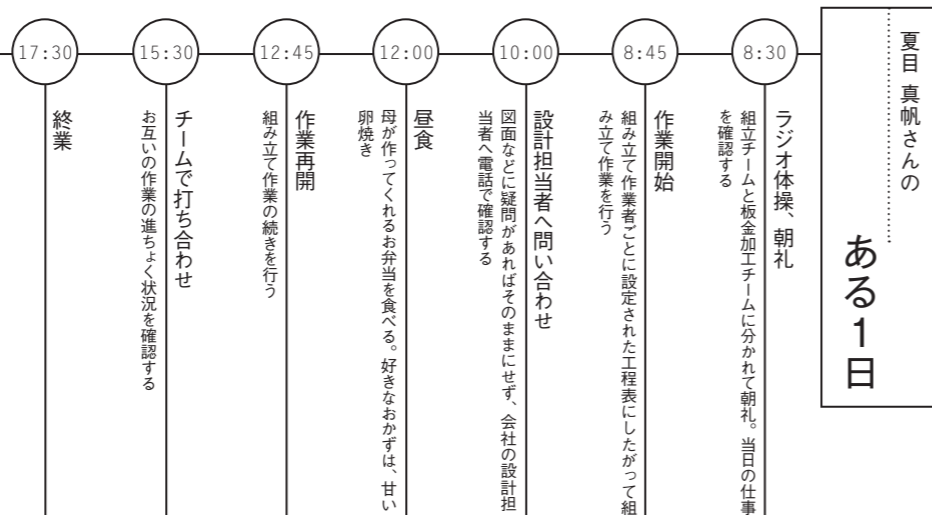
ことがうれしいですね」と話す。

企業情報

株式会社中央製作所
 所在地 / 名取市愛島台 7-101-51
 TEL : 022-382-2121
 http://www.cew.co.jp/
 代表取締役 / 窪内 啓介
 資本金 / 4,800 万円
 設立 / 1943 年 8 月
 従業員数 / 125 人 (2019 年 3 月現在)
 事業内容 / 通信事業者向けの受配電盤、遠隔監視システム、ラックキャビネット、セキュリティ・モバイル関連、その他製品などの設計・製造
 企業理念 / 私たちは挑戦する姿勢を常に持ち、社会的課題を解決するため、時代の流れを捉えた技術開発を行い、情報通信社会の発展に貢献し、顧客、取引先、地域から求められる企業となります



ドライバーを使ってケーブルをつなぐ。配線を間違えないよう集中



電線に端子を圧着する。一つの盤を作るのには多くの作業が必要だ



ミスの予防と作業効率アップのため、工程はタブレット端末で管理されている



種類が多いボルトやナットは、色別のトレーに分けられている

仕事 03 CASE 03

情報通信社会を縁の下で支える技術

製造 夏目 真帆さん (25 歳)
 株式会社中央製作所 (名取市)

「手先を使う仕事が好き」
 夢をかなえてものづくりの現場へ
 人がすっぽり入るほど大きなスチールラックがずらりと並ぶ工場。株式会社中央製作所は、主に情報通信の分野で使われる受配電盤・分電盤のメーカーだ。データセンター向けの分電盤では国内シェア2位を誇り、24時間365日休みなく稼働する情報通信社会を支えている。入社7年目の夏目真帆さんは、交流分電盤の組立配線を担当する。
 「たくさんあるケーブルの配線を間違えないように、細かな部品を盤内に落とさないように」

宮城県工業高等学校の電子機械科出身の夏目さん。普通科への進学とギリギリまで迷ったが、自分は手先を使う作業が好きだと気づき、ものづくりにも興味があった。工業高校へ。就職活動では同じ科の女子の先輩が同社へ就職したことを知り、「女性が活躍できる会社」というイメージを抱いて、後に続いた。入社してみると、実際に男女の区別なく仕事ができる環境だったという。「でも、最初は本当に分らないことば

納入先で見た自社製品に
 仕事への誇り実感
 製造を担当する技術者は基本的に工場働くが、必要に応じて製品の納入先へ出向くことがある。部品交換や改造作業、故障の対応などだ。臨機応変な判断と高度な作業が求められるため、一定の経験を積み技能を身に付けた人でなければ対応できない。夏目さんは昨年、初めてこの「出張」を



もつと多くを知りたい！
 貪欲にチャレンジし続ける



1 身長より高いキャビネットの中の交流分電盤を組み立てるのが、夏目さんの仕事。事前に図面を先輩とチェックする。担当の先輩社員とは常に連携を取りながら作業を進める

2 「銅バー」と呼ばれる銅製の板をスパナで取り付ける。緩みなく、一つ一つしっかり締めていく



未来の ACE へ
 アドバイス

就活のときは「高校で学んだことが生かせる会社に……」と思いがちですが、あまり先入観にとらわれずいろいろ求人票を見てみるといいと思います。直感や好奇心を信じて「やってみたい」「面白そう」と感じた会社にアタックしてみてもいい。私は工場見学の際に「仕事が難しそう、でもかっこいい！」と感じて決めました。

高校時代の経験は、社会人になってから必ず役立ちます。勉強はもちろんです。当時は意味がないと思っただけでやらなかった勉強を、しっかりしておけば良かったと本当に後悔しています。でもそれだけでなく、部活動や人付き合い、遊びなどどんなことも無駄になりません。仕事では総合力が試されるので、高校時代の時間を大切に過ごしてほしいと思います。

仕事
図鑑 CASE
04

プロの現場で活躍する 信頼性の高い音響機器

生産管理
伊藤 雄太さん (31歳)
東北アシダ音響株式会社 (石巻市)

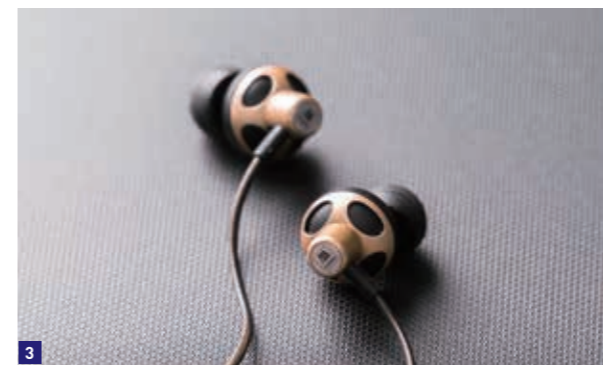
石巻で40年以上にわたりイヤホンやヘッドホン、スピーカーなどを製造する東北アシダ音響株式会社は、数少ない国産メーカーである。

同社でイヤホンやヘッドホンなどのプラグ端子や樹脂製小型部品を射出成形により製造しているグループリーダーとして働く伊藤雄太さんは、忙しそうに金型のメンテナンスをしていた。

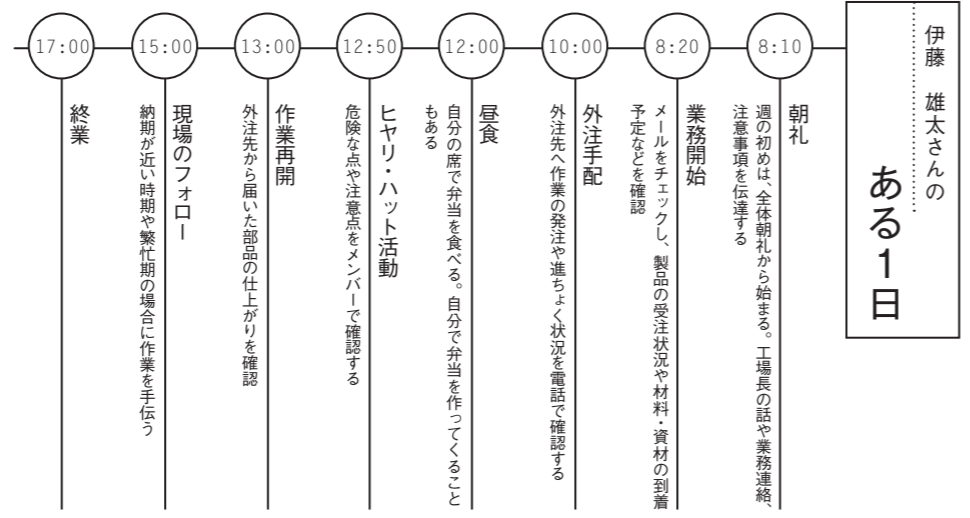
「私たちの会社では、少量多品種の製品を扱っていることもあり、製造するアイテムが何度も切り替わります。そのたびに、金型を変える必要があるため、日頃のメンテナンスが欠かせません」と伊藤さんは教



ものづくりと人の流れを
パズルのように組み合わせる



- 1 イヤホン部品の成形に使う金型をメンテナンスする伊藤雄太さん。部品を一つ一つバラバラにしてゴミや汚れを取り除く
- 2 製品によって端子の構造もさまざま。効率良く製品を切り替え、納期を守るのが伊藤さんの使命だ
- 3 同社のイヤホンは、石巻市のふるさと納税の返礼品になっている。ふるさと納税限定カラーの「シャンパンゴールド」が高級感を醸し出す



外注先から届いた製品の品質を入念にチェックする



作成した作業計画を工場長に提出。今後の作業について話し合う



製品の受注状況を確認し、作業計画を作成する



メンバーに作業の進み具合を聞いたりアドバイスをしたりする

企業情報

東北アシダ音響株式会社

所在地 石巻市大街道 5-1-39
TEL: 0225-96-7793
<http://www.ashida.co.jp/>
※アシダ音響株式会社 HP

代表取締役社長 柳川 久
資本金 1,560万円
設立 1973年1月
従業員数 59人 (2019年2月現在)

事業内容 ヘッドホン、ヘッドセット、イヤホン、トランペットスピーカー、その他音響機器及び部品の製造

経営理念 当社は、音響製品・部品の製造・販売を通して、音楽、情報通信その他、音に関わるすべての分野で顧客の皆様にご満足して頂ける製品・部品を提供することにより社会の発展に貢献します

内のあらゆる現場に行って、工程の流れをあらためて覚えました。

作業の遅れや重大なミスが発生すると、その後の工程だけではなく完成品の納期そのものに影響を及ぼしてしまう。取り返しのつかない事態にならないように、伊藤さんは、作業ルールを作成しメンバーと共有しているという。

「年上の女性が多い職場なので、最初は指示を出すときに戸惑いました」と振り返る。しかし、納期に向かって一丸となつて取り組むうちに、不安を取り除くことができたという。

「こうして、みなさんと一緒にものづくりを携わることができている事に楽しさややりがいを感じています」と話す伊藤さん。「いつか工場全体のものづくりが分かるようになりたい。そのために、これからの一つ一つキャリアを重ねたくさんの分野を経験したいです」とさらなる成長を誓った。

**未来のACEへ
先輩からの
アドバイス**

みなさんも将来就職する会社で、いろいろな部署への異動を経験することがあるでしょう。最初は、不安に感じるかもしれませんが、それまでやってきたことに自信をもって挑戦してください。

ときには思わぬスキルが役に立つことがあります。私は、子どもの頃からシミュレーションゲームで遊んでいました。めまぐるしく変化する状況に合わせてさまざまなミッションをクリアするところが、いまの役割と共通して楽しみな仕事をしています。

みなさんが、いま夢中になっていること、興味を持っていること、いつかきつと役に立つでしょう。そのためにも、できるだけたくさんの方に興味を持って、自分の視野を広げてみてください。



ACE 特別企画 に聞く

特集「ものづくりにかける」では、5年にわたり宮城県のものづくり企業で活躍するACEの姿を紹介してきました。Vol.13に登場した、株式会社東京ダイヤモンド工具製作所 仙台工場（村田町）の半沢晃多さんのもとへ、記事を読んだ宮城県白石工業高等学校の生徒が訪ね、高校の先輩でもある半沢さんから直接話を聞きました。



宮城県白石工業高等学校 機械科1年
阿部 叶夢さん (16歳)



宮城県白石工業高等学校 機械科1年
島貫 脩也さん (16歳)



宮城県白石工業高等学校 機械科1年
佐藤 駿太さん (16歳)



株式会社東京ダイヤモンド工具製作所 仙台工場 生産管理部
半沢 晃多さん (24歳)

取材を通して伝えたかった 高校生と社会人の「ギャップ」

半沢 「オガール！ACEの取材を受けるように」と上司から聞いた時は、本当に驚きました。記者に質問される機会は、日常ではないので、とても緊張しましたが、自分の考えが実際に誌面に載るといふ貴重な体験をすることができました。

取材を受けた当時は、生産管理部に異動したばかりだったので、取材をきっかけに、あらためて頑張らなければいけないと思いました。

佐藤 記事を読んで、「将来のために、工全体の流れを学んでほしい」と上司の方に言われて、生産管理部に異動したところから印象に残りました。私も上司や周囲の人たちから信頼されている半沢さんのようになりたいと思いました。

島貫 最初は学ぶべきことが多く、不安を感じていたにもかかわらず、「ものづくりが楽しくて、辛いと感じたことはなかった」という半沢さんはすごいと思いました。

阿部 私も高校の実習や部活で普通旋盤を使っています。記事や写真から、ミスは許されないという真剣さを感じる事ができました。

半沢 私の記事から、みなさんが学生の時と社会人になった時の温度感の違いを感じてくれたようですね。

私自身も高校生の時からそう感じていました。社会に出た時の「ギャップ」の存在

だと感じました。それを2年生のうちに合格できるなんてすごいと思いました。

技能検定のほかに高校で頑張ってきたことで役に立ったことはありませんか？

半沢 スキーでしょうか。部活もスキー部だったので、その時に鍛えた体力やメンタルが、社会人になってストレスに負けない力になっていると思います。

スキーといえば、当時の機械科長だった先生と、中学生の時からスキー競技でお世話になっていました。この出会いがきっかけで白石工業高校に進学し、旋盤と出会い現在に至ります。不思議な縁ですね。

課題をクリアした経験が 将来必ず役に立つ

阿部 仕事をするうえで一番気を付けていることを教えてください。

半沢 生産管理の仕事は、現場のみなさんにいろいろお願いする立場です。ときには大先輩に無理なお願いをすることもありますが、言葉遣いだけは意識しています。

佐藤 生産管理部に移ったときの気持ちはどうでしたか？

半沢 部署が変わることで、自分に求められる考え方や役割が変わると覚悟していました。その部署のルールを頭に入れて、自分の行動に反映させるまでに、相当時間がかかりましたし、いままなお勉強中です。

島貫 普段の勉強と技能検定との両立のコツを知りたいです。

だけでも知っておく必要性を伝えることができると嬉しいです。

技能検定とスキーマの経験が いまの仕事にも生きる

島貫 たくさんの企業がある中で、いまの会社を選んだ理由を教えてください。

半沢 高校生の時、旋盤を使う仕事に就きたいと思っていました。3年生になって先生の紹介でこの会社の採用担当者から「普通旋盤が得意な人を求めている」ということがって就職を決めました。

佐藤 高校生の時に取っておいて良かったと思う資格は何ですか？

半沢 やはり就職につながった普通旋盤2級の技能検定に合格したことですね。技能はもちろん、課題を解決するためにどんな努力が必要かということも学ぶことができ、いまの仕事でも生かされています。

みなさんは、いまだどんな資格取得を目指しているのですか？

阿部 機械検査3級と普通旋盤3級を受検してその結果待ちです。

佐藤 私も同じです。ほかに計算技術検定に合格しました。

半沢 私と二人と同じですね。2年生になってから普通旋盤2級に合格して、技能五輪にも挑戦しました。クラスメイトといつもレベルを競い合っていましたね。みんな負けず嫌いでしたから(笑)。

島貫 2級の課題を見た時とても難しそう

半沢 技能検定とテストの時期が近いときは、本当に大変ですね。検定の学科試験の勉強は、過去問の内容を確実に覚える。

テスト勉強は、授業のノートをしっかりと取って、何度も見直すことがコツでしょうか。限られた時間を有効に使うことを意識してみてください。

最後に、みなさんの将来の夢を教えてください。

佐藤 いま部活で旋盤の工具ホルダを作っていて、将来は工場の作業改善に貢献できるような職種に就きたいと考えています。自分のアイデアや技術で、ものづくりをするみなさんの役に立てたらうれしいです。

阿部 やはり機械加工の分野で活躍したいと思っています。旋盤を頑張っているのだから、これからも続けたいです。

島貫 県内にあるものづくり企業に就職したいと思っています。航空宇宙産業のような最先端の分野で活躍したいです。

半沢 みなさんがこれまでの私生活・学校生活などにおいて、様々な課題を克服するためにチャレンジしてみたり、指導して頂いたりしてきた経験は、どんな仕事に就いても応用できるはずですよ。それは、与えられた課題に対して真剣に向き合い、本質を捉え解決するという考え方は、どの仕事にも通じる部分があると思うからです。

そして、広い視野と好奇心を持つことが、みなさんの進路決定に必ず役立つと思います。夢の実現に向かって頑張ってください。応援しています。



企業情報

株式会社東京ダイヤモンド工具製作所

所在地 / 本社：東京都目黒区中根 2-3-5
仙台工場：柴田郡村田町大字小泉字水上 6-1
TEL：0224-83-2435
http://www.tokyodiamond.com/

代表取締役 / 濱田 義之
資本金 / 1,000万円
創業 / 1932年7月
従業員数 / 135人(2019年2月現在・仙台工場)
事業内容 / ダイヤモンド・CBN工具全般の製造、販売、再生



◀半沢さんの記事が掲載されたオガール！ACE Vol.13 (2017年6月発行)。「自分が考えた計画で、工作機械を動かす人たちが、気持ちよく作業をする姿をみることでできたときが何よりもうれしい」と語っている。

実際の記事は右のQRコードから
https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/633050.pdf



繊細さと正確さ、 対人関係力を あわせ持つ女性の 力を生かしたい



代表取締役社長
鈴木 重人さん

鈴木さんは仕事で頼れるだけでなく、職場のムードメーカー。ものづくりの世界が好きだということが伝わってきます。

ものづくりは本来、男女問わず器用で根気強い日本人の資質に向いています。中でもミクロン単位の精度を合わせる、表面を美しく仕上げる、といった繊細な作業は、女性のほうが細やかで正確にできる人が多い。また、高度な加工知識を持ちながらお客様と現場をつなぐコーディネーター的役割は、コミュニケーション力の高い女性にこそ任せたい重要な仕事です。

当社では35歳まで家賃の半額補助(条件あり)、社屋内のカフェスペース新設など働きやすい環境づくりに取り組んでいます。今後も女性の活躍の場を増やしていきたいですね。

プラスエンジニアリング株式会社

1974年創業。電子部品、リチウムイオン電池、医療機器などの特注の精密機械加工部品を製作。高度な機械加工技術で、業界のさまざまなニーズに応える。

本社：東京都豊島区池袋 2-47-3
仙台事業所：柴田郡村田町大字村田字西ヶ丘 21
TEL 0224-83-5620
<https://www.pluseng.co.jp/>
従業員数 97人 / 女性 11人
(仙台事業所 2019年1月現在)



子どもの頃から、小さなものや精巧に作られたものが好き。就職活動の際、当社のホームページを見て精密機械の部品に目が引き寄せられました。

大学では化学系を専攻していましたが、「ここに入りたくない」と直感。見学に行くと、ガラスケースにサンプルがずらり。シンプルな機能美に感激して、夢中で見入ってしまいました。後になって採用担当者から「あれほどまじまじと部品を眺める女子は珍しい」と笑われましたが、入社11年目のいまも、製品が検査へ回ってくるたびにテンションが上がります。肉眼ではただのピンにしか見えなくても、顕微鏡でのぞくと細かい加工が施されていたり

して、ほれほれ！入社当初は図面の読み方も分かりませんでした。が、いまは図面からも出来上がりの形状が想像できるときめきます。

仕事中は集中力を使うので、休日にはあまり予定を詰め込まずリラックスして過ごします。DVDなどを観てまったり過ごすこともあれば、ドライブで遠出する日も。自然の美しい場所に行くのが好きで、先日は福島県のおぶくま洞に行きました。

女子だからものづくりに直接関わるのは難しいと、あきらめる人がいるかもしれませんが、でも女性の活躍の場はどんどん広がっているのだから、きっと合う企業が見つかるはず。頑張っ探して、たどり着いてほしい。ものづくりは楽しいですよ。

休日はのんびり DVDを観たり、 絶景目指して ドライブしたり。



福島県のおぶくま洞でパチリ。鍾乳洞の中を、ゲームの主人公気分ですら「探検」しました！

1000分の1ミリ単位で 精度をチェック。 日本のものづくり業界の 力になりたいです！



みやぎ ものづくり女子

精密機械加工部品を
作っています

プラスエンジニアリング株式会社
仙台事業所(村田町)

すずき さき
鈴木 沙紀さん



大きな測定機を操って、立体を三次元的に計測。「1000分の1ミリまで正確に測ることができます」

できあがった製品の最終検査を担当しています。寸法や外観、表面の仕上がりなどが、お客様から届いた図面通りに作られているかどうかを確認します。

当社が製造するのは、ものを作る機械に組み込まれる精密機械加工部品。電子部品やスマホ、医療機器、服飾などさまざまな業界で、生産ラインに使われます。年間に取り引きするお客様は約400社。製品はすべて特注で、ほとんどが手のひらサイズ以下。1000〜1000分の1

ミリ単位の精度が求められます。非常に細かいキズや欠けが、その部品の機能に重大な影響を与えることもあるので、肉眼で見えない場合は顕微鏡を使って確認します。神経を使う仕事で当初はとも疲れましたが、慣れてきた今は自分に向いているように思います。

検査で不合格を出す場合は、作り直してもらうことになるので、普段から加工者とのコミュニケーションは欠かせません。現場では「ウチにできなければ日本中どこでもできない」というくらい自信とプライドを持って仕事をしていて、かっこいいと思います。

生活に身近な企業ではないので、実は入社するまで、何の会社かよく分かっていませんでした。入ってから少しずつ理解し、さらに数年経ってから「うちの会社ってすごいかも」と思うようになりました。日本のものづくり業界のあらゆる分野に、当社の部品が使われていると思うと誇らしい気持ちです。

職場の雰囲気はとてもアットホーム。私は近くで一人暮らしをしているのですが、パートの方がお惣菜を分けてくれたりして、優しくしてもらっています。

あすを拓く

アートなトイレを世に送り出し
世界から注目を集める企業が宮城にある。
その斬新なアイデアの原点は
「誰もがきれいに使ってほしい」との思いだった。



泰光住建株式会社

クリエイター兼 CEO
あかま こうじ
赤間 晃治さん

プロフィール
1978年、仙台市泉区生まれ。2001年、父親から経営を引き継ぎ、有限会社泰光住建（当時）の代表に就任。2014年からデザイントイレ事業に着手する。「INDEX 2015デザインアワード」キッチン&バス部門で2位受賞、「A'DESIGN AWARD & COMPETITION 2017」でBronze Award受賞、「OMOTENASHI Selection 2017」金賞受賞など、国内外のコンテストや展示会で高い評価を受ける



さまざまな絵柄があるアートレット。浮世絵のような複雑なデザインも再現可能だ

泰光住建株式会社では、同社が立ち上げた装飾トイレのブランド「アートレット」をフランスで本格展開させるため、着々と準備が進んでいる。

「いまフランスでは、公衆トイレを中心に温水洗浄トイレの普及の機運が高まりを見せています」と代表の赤間晃治さんは説明する。

同社では、スイスやドイツのメーカーが製造した温水洗浄トイレを装飾し、フランスへ輸出する計画に取り組んでいる。2018年11月にパリで開催された展示会を足掛かりに、市場開拓を目指し、20年の東京オリンピックやドバイ万博への導入や設置にも挑戦中だという。

「メーカーとの共同カタログが完成して、アートレットの商品価値が認められたと実感しています。とてもうれしいことです」と赤間さんは手応えを感じている。

構想から実現へ 震災を契機に開発に着手する

23歳の時、父親が立ち上げた泰光住建を継いだ。もともとファッション業界を志していた赤間さんは、会社を継いでからも、「デザインに関わる仕事がしたい」と、新たな事業を模索していたという。

かつて、「トイレを綺麗にすると集客率が上がる」と、友人が経営する飲食店のトイレのデザインを頼まれたことがあった。「その時は、便器の表面にカットイングシートを張り付けてデザインを施したのですが、洗剤などの影響によってシートがはがれやすく、3カ月に1度は張り直さないときれいな状態を保てませんでした。そこで、一枚のフィルムで全体を覆うように張り付けるというアイデアを思いつきました」

当時の構想を実現させようと思いついたのは、東日本大震災がきっかけだった。

赤間さんは、震災が発生した3日後から避難所などのトイレや下水の復旧で多忙な毎日を送っていた。利用者のモラルの低下から、何度修理しても、つまりや汚れが後を絶たなかったからだ。中には汚れたトイレが嫌で我慢したことにより、体調を崩した人もいた。その話を聞いた赤間さんは、「誰もがきれいに使いたくなるトイレ」の必要性を強く感じたという。

「そこで、以前構想にあったデザイントイレなら、みんながきれいに使おうと思うのではないかと考えたのです」

デザイン技術と施工技術を 試行錯誤し製品化にこぎつける

こうして、デザイントイレの開発を始め、た赤間さんは、いきなり大きな壁に直面した。複雑な形状をしている便器の表面に一枚のフィルムを張り付けるためには、高度な技術が必要だったからだ。

「さらに、絵柄をプリントしたフィルムを張り付けると、ゆがみやしわができたり、フィルムのつなぎ目で絵柄が途切れてしまったりして、忠実な絵柄を再現できないことが分かったんです」

そこで赤間さんは、コンピュータグラフィックスの技術を用い、数年かけて独自のアルゴリズムを開発。トイレのふたを閉めた状態で絵柄が完成されて見えるような展開図を作り上げた。そして、職人が1日かけて丁寧にシートを張り、しわのない美しいデザイントイレを完成させた。

こうして誕生した斬新なデザイントイレは、英語で芸術を表す「アート」と、イタリア語でトイレを指す「トイレッタ」を合わせて「アートレット」と名付けられた。「独自のアルゴリズムと、職人が試行錯誤を重ねて確立した技が融合し、アートレットの美しいデザインが可能になりました」

世界市場へのチャレンジ メーカーやバイヤーの関心を集める

当初アートレットを、仙台市内で展開しよ

うと考えていた赤間さん。展示会での反応は上々であったが、「すごい、面白い」とは言ってくれても、購入に至らないケースが多かったという。

「アートレットの技術は、自分が知る限り世界でうちにしかないはず。それなら、その付加価値を認めてくれる市場に打って出ようと海外に目を向けました」

赤間さんは世界的な観光都市で富裕層も多い、アラブ首長国連邦のドバイに注目。ここを情報発信の拠点にして、世界中に商品を広めていこうと、2015年に日本貿易振興機構（JETRO）の採択を受け、ドバイで開催された展示会に出展した。赤間さんの狙い通り、ドバイでの展示会では、多くの関心を集め高い評価を受けた。その後、イタリアやフランスなどで開催されたインテリアの展示会に出展し、注目を集めた。

アートレットの開発を始めたばかりのころは、トイレにデザインを施す発想を周囲に理解してもらうことができず、「うまくいかないだろう」と厳しい声もあった。

「でも私は、いつか必ず売れるという確信を持ってやってきました。こうして目に見える結果が出て、とてもうれしく思っています」と話す赤間さん。「仙台の小さな会社でも、独自の技術やアイデアがあれば、全国や世界から声を掛けてもらうことができる。これからは、あっと驚くようなアイデアで世界中から呼ばれる企業にしていきたいです」と熱く語った。



泰光住建株式会社

1987年に水道管工事会社として設立。仙台市優良公認店表彰を7度受賞、仙台市水道事業功労者表彰(2016年)を受賞した高い技術で、生活に欠かせない水道・排水を支える

所在地

仙台市泉区長命ヶ丘1-17-3
TEL 022-378-4543

http://www.taikoujuken.com/jp/



「英語力を生かし、地元仙台から世界へ挑戦する若者たちを採用していきたい」と話す



2018年11月にパリで開催された展示会でも多くの人から注目を集めた



職人の手作業によって丁寧にフィルムを張り付け、絵柄を忠実に再現していく

技の肖像



仙臺筆筒の木地に漆塗りを施す菅野裕喜さん

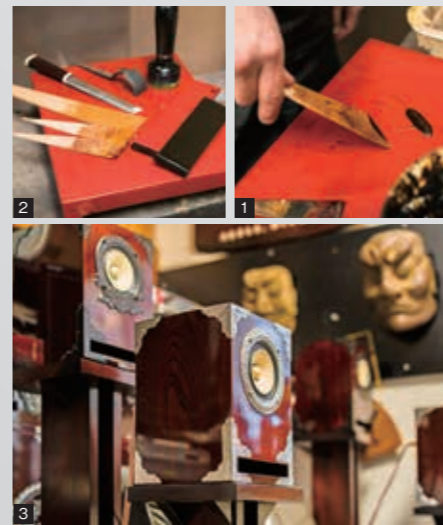
塗師

英語で「Japan」が「漆」を意味するように、漆塗りは日本が世界に誇る塗装の伝統的な技法である。漆塗りの塗師は、漆を薄く均一に塗っては研ぎ磨く工程を何度も繰り返す。こうして、木地の表面に漆の皮膜を重ね、艶やかな光沢を作り出す。

仙台市内の工房で、仙臺筆筒の塗りを手掛ける菅野裕喜さんは、「仙臺筆筒の漆塗りは、最初に行う素地の調整で仕上がりが決まる。いかに均一な平面を作り出せるかどうかにかかっています」と話す。

木地の表面を丁寧に砥石で研いで極限まで平らにする。そこに、仙臺筆筒の伝統的な塗りの技法である「仙臺木地呂」を施すと、鏡面仕上げの底に透けて見える木目が引き立つ美しい塗りが完成する。

幼い頃から大工だった祖父に憧れ、ものづくりに関心を持った。高校生の時には、



1. その日の温度や湿度に合わせて漆を最終調整する
2. ヘラや刷毛、刃物などさまざまな道具を使って漆塗りが施される
3. 伝統技法が生きた仙臺筆筒オーディオスピーカー HBS10。「漆塗りが音質変化に影響を及ぼす」という検証結果から生まれた新しい仙臺筆筒の形だ

定義如来(仙台市)の五重塔の姿に衝撃を受けた菅野さんは、宮大工の夢を志した。石巻高等技術専門学校(石巻市)で木工を学び、あの五重塔の建築に従事した宮大工の棟梁を訪ね、弟子入りを志願した。しかし、職人に空気がなかったこともあり、宮大工の道は閉ざされてしまったという。

「その後は、専門校の先輩の仕事を手伝いました。そのとき仙臺筆筒と出会い、塗りの職人になることを決心しました」

先輩の紹介で、いまの師匠である長谷部嘉勝さんに弟子入りした菅野さん。13年経った昨年12月に、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会から伝統工芸士の認定を受けた。「これまで培ってきた技と感性をさらに磨いて、仙臺筆筒の伝統をつなぐ力になりたいです」という決意を胸に、菅野さんは新たなステージへと歩み出した。

問い合わせ
有限会社長谷部漆工

仙台市青葉区郷六葛岡下 10-4
TEL : 022-302-1505
https://hasebe-sikkou.jp/



みやぎの優れた技能者を表彰 平成30年度宮城県職業能力開発関係表彰式

宮城県内の産業の振興・発展に寄与した技能者などを表彰する平成30年度の「宮城県職業能力開発関係表彰式」が11月30日、県庁で行われた。

表彰式は、卓越した技能で業界の振興に貢献した「卓越技能者」と、技能の研さんに励んでいる「青年技能者」のそれぞれ10人が表彰された。卓越技能者の表彰を受けた、東北発電工業株式会社利府製作工場(利府町)の村上純一さんは、過酷な条件下でも、的確に作業を行



卓越技能者の表彰を受ける村上純一さん



青年技能者の表彰を受ける佐藤博幸さん



平成30年度 宮城県職業能力開発関係表彰式
建具製作や水産物製造などさまざまな技能者が卓越技能者の表彰を受けた

う半自動アーク溶接の高い技能などが評価された。青年技能者の表彰を受けた、プラスエンジニアリング株式会社仙台事業所(村田町)の佐藤博幸さんは、技能検定の放電加工特級に合格し、微細穴加工をこなす高い技術などが評価された。また、社内外で若い技能士の育成に積極的で、将来の業界におけるリーダー

として期待された。卓越技能者の表彰は39回目、今回を含め、668人が受賞。一方、青年技能者は16回目で、164人が受賞している。

業界関係者から直接話を聞く 新規大卒者向け「業界研究セミナー」

12月25日、2020年3月に大学院・大学・専門学校等を卒業予定の学生などを対象とした新規大卒者向け「業界研究セミナー」がAER(仙台市)で行われた。第一部では、株式会社アフターリクルーティング



良い企業を探すポイントを説明する池谷昌之さん



IT業界やエンジニアの仕事の魅力を話す高谷将宏さん

(仙台市)の池谷昌之代表が、「2019年企業の採用動向と自分に合った企業の見つけ方」と題して、就職活動を始める前の準備や就職活動のポイントなどについて話した。

池谷代表は、「良い企業

を見つけるためには、できるだけ多くの企業の情報に触れることが重要です。知っている企業や業種を増やし、幅広い選択肢の中から研究を進めてみましょう」と参加者に呼びかけた。

第二部では、ものづくりやIT、建設など10の業界ごとに分かれたブースで、参加者が興味のある業界の関係者の話を聞いた。

「IT業界」のブースでは、一般社団法人宮城県情報サービス産業協会に所属する株式会社エヌエスシー

(仙台市)の高谷将宏さんが、「私たちの業界は、みなさんの日常で活用されるさまざまなサービスに関わっています。同業者間での取引が多いのも特徴で、宮城県でも企業同士がとて良い関係を築いています」と説明した。

同ブースで話を聞いた学生は、「女性でも活躍できる業界で、女性エンジニアが増えていると聞いたので、就職先の選択肢に加えて検討したいと思っています」と話した。

ものづくりのプロから学んだ成果を発表 平成30年度みやぎクラフトマン21事業 成果報告会

1月16日、仙台工業高等学校(仙台市)で「みやぎクラフトマン21事業」の成果報告会が行われた。同事業は、宮城県内の工業系高校と企業などが連携し、ものづくり人材の育成に取り組むもの。12年目の取り組みとなる今回は、県内13校の高校生が、活動内容や習得した知識と技能などについて発表した。

気仙沼向洋高等学校(気仙沼市)の発表では、機械技術科の生徒が、電子機器組立て作業3級の技能検定合格に向けたものづくりマイスターから指導を受けた講習会について報告。生徒は、「いままで自分が行っていた方法と、今回マイスターの方に教えていただいた方法とのさまざまな違いに驚きました。教えてもらった方法で検定試験に臨みたい」と話した。

生徒は、「企業の方と連携してコマ製作に取り組めたことで、社会観や職業観を身に付けることができました」と感想を話した。

報告会では、生徒の活動報告のほかに、工業系高等学校教諭による研修会受講の報告も行われた。



技能講習会などについて報告する気仙沼向洋高校の生徒



伊具高校の生徒からは、コマ製作のほか、5S研修などの報告もあった